

栽培種目：まくわうり

## プランタによる“まくわうり”栽培に挑戦-2020 年度

チーム名：まくわうりチャレンジャー

氏 名：中村 直充（代表）、斎下和彦、高橋 宏、難波 清之、山本多美

### 〔要約〕

2019 年度の栽培経験を活かして、2020 年度も引き続き、プランタによる、“まくわうり”の栽培育成に挑戦した。

毎月の班ミーティングはコロナウイルス感染予防対策のため、実施できなかったが、各自、昨年度の経験から得た課題をクリアすることを目標に取り組んできた。

少量ながら収穫できた方、全体が枯れてしまった方、再度うどん粉病が発生した方、それぞれ異なる結果になったが、総じて6月からの長雨、梅雨明け以降の高温に悩まされてしまった挑戦であった。

以下、メンバーがまとめた育成レポートをまとめ、チーム報告としている。

**斎下和彦**

栽培末期に急激に蔓枯れが発生し、昨年同様に収穫に失敗した。

原因は色々あると思うが把握できなかった。

### 1. 初めに

昨年と同じ「まくわうりのプランタ栽培」を行ったが、栽培末期に急激に蔓枯れを発生し、昨年同様に収穫に失敗した。原因は色々あると思うが把握できていない。

### 2. 栽培経過

- 1) 播種は4月29日と5月18日の2回行った。
- 2) 4月29日（第1回目の播種）  
水に1晩浸漬した種12粒を播いた。  
このうち6粒が5月11日（播種から12日後）までに発芽したが、それから6日後（5月17日）迄に全部が枯れ、その後の栽培に活かせなかった。  
20℃以下の低温続きだったことが原因かもしれない。
- 3) 5月18日（第2回目の播種）  
種4粒を播き直した。8日後の5月26日に4粒とも発芽した。  
気温25℃以上が続いたことが幸いしたと思われる。
- 4) 6月6日  
発芽した4本のうち2本を間引きし、残り2本をプランタに移植した。  
移植後、梅雨入りし長雨と低温、日照不足により成長は思わしくなく、肝心の花付きも芳しく進まなかった。
- 5) 7月28日  
下葉3枚が茶色に変色し、枯れの症状が現れる。花は付いたが、肝心の雌花が見当たらない。
- 6) 8月8日  
径2～6mmほどの小粒の果実が3

個ほど出来たことを確認する。8月3日に梅雨明けし、30℃超の猛暑が連日続いたことの効果と思われる。

- 7) 8月17日：葉が急に萎れ状態になる。それから2日後の8月19日に株全体が枯れてしまった。(つる枯れ病?)。

枯れが始める前



枯れの始まり



### 3. まとめ

今回は植物の栽培の奥深さを改めて認識した。前回は曲がりなりにも果実を得ることまで出来たが、今回は同じ失敗でも果実を得ることまでいかなかったことを非常に残念に思う。以上

高橋 宏

種から栽培したが、1回目(4月)、2回目(5月)、3回目(6月)、すべて発芽せず、4回目(8月)、残っていた種でようやく発芽した。

発芽した後は、順調に育ち、9月になってから収穫できたが、3回目まで発芽しなかった原因が何かわからなかった。

#### 1. 初めに

5-G 班の課題作物として、プランタでまくわ瓜の栽培を行った。

#### 2. 栽培経緯・方法

- 1) 4月26日、ビバホームで黄金マクワウリの種を買う。午後、プランタに種を蒔く。
- 2) 5月13日、芽が出ないので、残りの種を蒔く。
- 3) 5月23日、発芽しないので、もう一度ビバホームで種を購入し、蒔く。
- 4) 6月 また、芽が出なかった。



芽が出ない

- 5) 7月 レポートを書くため、確認すると残りの種を見つけた。
- 6) 8月1日 残りの種を蒔く。
- 7) 8月7日 発芽を確認(12芽)する。



8) 8月16日 間引きし、4芽にする。



9) 9月12日 順調に成長し、実を1個つける。



10) 9月26日 成長を続けている。もう少しで収穫出来そうである。



### 3. まとめ (考察)

- 1) 発芽不良は、種の不良と考えたのは、間違いだったが、何が原因かはわからなかった。
- 2) プランタの土は、その後ねぎを植えたが、ねぎは成長している。

以上

#### 難波 清之

課題作物とした、まくわうりを種から栽培した。2019年度の栽培経験(風で落果)を踏まえ、プランタの置き場所を途中で替えたが、葉を害虫に食べられたり、うどんこ病、べと病のような症状が出たりした。収穫できたのは1個だった。

#### 1. 初めに

プランタによる“まくわうり”の栽培・育成をテーマとし、“うどんこ病”の発生予防に努め、2019年度の栽培経験から、栽培上の課題と感じた点の解消を研究目標とする。昨年は途中まで順調だったが、風対策を怠ったため、落果・失敗してしまったので、今回は注意するつもり！

#### 2. 方法

ポリポットに種をまき、育苗し、本葉が7枚になったら、摘心しプランタに植え替えて育てる。

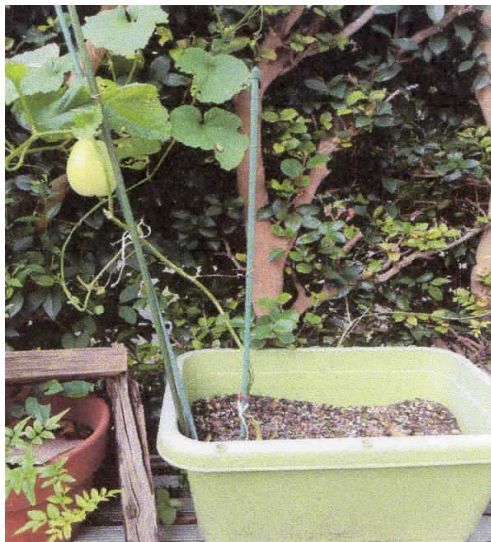
#### 3. 結果

- 4/25 ポットに4粒の種を蒔く。(昨年買った種なので、発芽するかどうか不安！)
- 5/1 1粒だけ、緑の芽が見えた。
- 5/7 1cmに成長した芽が消えていた。(小鳥に食べられたかも?)  
改めてポットに種を蒔き、プランタにも蒔いておく。
- 5/13 芽吹く。
- 5/24 また、ポットの芽が消えた！

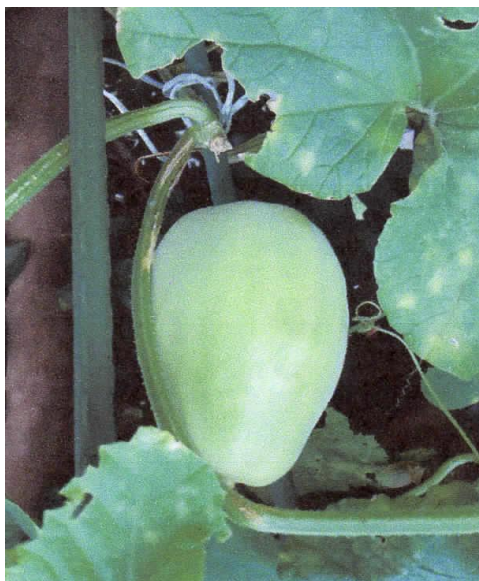


- プランタの方は無事だった！！
- 6/9 苦土石灰、化学肥料を一握り蒔いておく。葉が5枚に増えている。
- 6/20 棒を立てて倒れないようにし、整枝する。
- 7/2 この1週間程は雨風が強い日が多く、昨年の失敗を繰り返さないよう、風のあたらない場所にプランタを移動する。雌花が一輪、雄花が4輪咲く。
- 7/5 苦土石灰、化学肥料を一握り蒔く。雌花の下がふくらんできた。

てきたので、傷んだ葉っぱを切り取り、様子を見ることにする。



8/19 収穫する（1個だけ！）



#### 4. まとめ（考察）

6月の長雨、8月梅雨明けしてからの高温と作物にとってはあまり良い環境ではなかった。出だしから、鳥害？により、つまずき、今回も失敗作に終わった。

以上

山本 多美

2019年のプランタによる“まくわうり”栽培経験から、良いものを栽培したいと意気込んだが、例年になく異常気象で、うどんこ病が防ぎきれなかった。

また、2個収穫できたが、とても食べられるものではなかった。

- 7/12 梅雨明け宣言の後、茶色の虫（ウリハムシか？）に葉っぱを食べられる。うどんこ病、べと病のような症状も出

#### 1. 初めに

まくわうりは2019年プランタによる栽培経験があり、うどんこ病に気を付け、

大きくて、美味しい実を収穫しようと挑んだ。

## 2. 方法

- 1) プランタ  
長方形、  
長さ 60 cm、幅 25 cm、深さ 34 cm
- 2) 用土  
新しい培養土に牛糞を 1 割と有機石灰を一握り混ぜる。オルトランも少し混ぜる。また、底に保水性を保つため、ネットに小石を詰めたものを 6 袋用意する。
- 3) 種まき前の準備  
プランタにネットを使用した軽石を敷き、用土を入れて 1 週間寝かす。

## 3. 栽培過程

- 1) 5 月 19 日 まくわうりの種をプランタに直まき (2 か所に 4 粒ずつ) する。
- 2) 5 月 31 日 気が付いたら芽が出て大分成長している。



- 3) 6 月 7 日 元気な 2 本を残し、間引き



する。割り箸で支柱を立てる。

- 4) 6 月 13 日 本葉 7 枚で摘心する。
- 5) 6 月 23 日 プランタの四隅に 120 cm の支柱を立て、上部と中間に支柱を渡す。さらに 20 cm 間隔のビニール紐を渡す。
- 6) 6 月 30 日 大分、伸びてしまい、整枝する。まくわ瓜は孫づるに雌花 (果実) を付けやすい性質があるので、つるを上に向け誘導する。この時「子づるか孫づるか」がわかりにくくなって苦労する。
- 7) 7 月 13 日 花が咲きだしたが、ちらほら、うどん粉病が発生する。発生している葉を取り除き、消毒する。その際に根が浮いてきたので、土と肥料を追加する。





- 8) 7月27日 あまりの長雨と日照不足でうどん粉病がひどくなる。



- 9) 8月10日 ころうじて、2つ実る。



- 10) 8月18日 梅雨明け後は猛暑となり、まくわうりは惨憺たる状態になる。



- 11) 8月20日 実を2つ収穫する。



#### 4. 結果

“苗2本で、果実2つ?”と言いたいが、とても食べられる物ではなかった。2つとも大きさは8.5 cm位で、一つはなぜかひょうたん型をしている。

#### 5. 考察 (まとめ)

今年は2回目のまくわうり栽培なので、良いものを作りたいと意気込んでいた。

しかし例年になく異常気象で、うどん粉病が防ぎきれなかった。

このような異常気象が続く限り、夏にかけてのプランタ栽培は難しいと考える。

以上